

平成26年度第1回奈良県社会教育委員会議（概要）

〔報告書〕

- 1 日 時 平成26年10月9日（木）10:00～12:00
2 場 所 奈良県文化会館第3会議室
3 出席委員 委員名簿記載のうち、飯田喜代視 池田誠也 今井篤子 大寺和男 杉澤茂二
高柳忠夫 谷本 忍 辻村里美 中島祐子 中西 達 福田裕光（敬称略）

11名

- 4 内 容 (1) 開 会 あいさつ 奈良県教育委員会教育長 吉田育弘
(2) 委員紹介
(3) 議長・副議長選出（議長：飯田委員 副議長：中島委員）
(4) 議 事



- ① 平成25年度奈良県社会教育関係事業の報告について
- ② 今後の社会教育行政等の推進の在り方について
- ③ 奈良県の社会教育の現状と課題について
- ④ 奈良県の社会教育で取り組むべきことについて

5 委員からの主な意見について（④奈良県の社会教育で取り組むべきことについて）

【地域の課題について】

- クラスの中に、5、6人の割合で貧困家庭の子どもがいる。今、子どもの貧困が緊急の課題であり、しっかりと議論していかななくてはならない。
- 地域の人口が減っており、切実な悩みである。地域に子どもがいなくなり、高齢者が増加している。
- 団塊の世代の生きがいつくりも、課題である。
- 地域の課題は多種多様であるので、2つ3つにしぼって取り組む必要がある。



【社会教育で、取り組むべきことについて】

- 人権問題に関する取組（DVや虐待等）は、現在はNPOなどの市民運動が中心に、1つの目的に向かって取組を進めている。そのような市民運動を住民運動につなげ、住民運動として課題設定し、地域住民にどう広げていくかが社会教育の役割である。
- 奈良県公民館連絡協議会では、地域の課題を解決するモデル公民館事業を行っている。物的、人的資源を利用し、マンパワーで事業を展開している。
- 地域には、1人で様々な社会教育の活動をしておられる方がいる。公民館をプラットフォーム的な場所として、いろいろな社会教育団体や個人のノウハウをネットワークでつなげていき、それぞれの活動を活性化させていくことも考えられる。
- 若い夫婦の家庭では、範を示す者が家庭内にいないこともあるが、県教育委員会が取り組む「おはよう・おやすみ・おてつだい」約束運動は、家庭に良い影響を与えている。このような活動を継続的にしていくことが大切である。
- 学校の家庭科の授業、図書整理、環境整備については、保護者が支援ボランティアで入っている。地域の方にも入っていただけたら、子どもたちがもっと色々な体験活動ができる。子どものうちに地域とつながる体験をさせることが大切であると思う。

【奈良県社会教育委員会議に関わって】

- より議論を深めるため、社会教育委員会議の開催回数を増やすことも必要と思う。
- 年4回ほど会議を持ち、諮問を行っている市町村もある。

